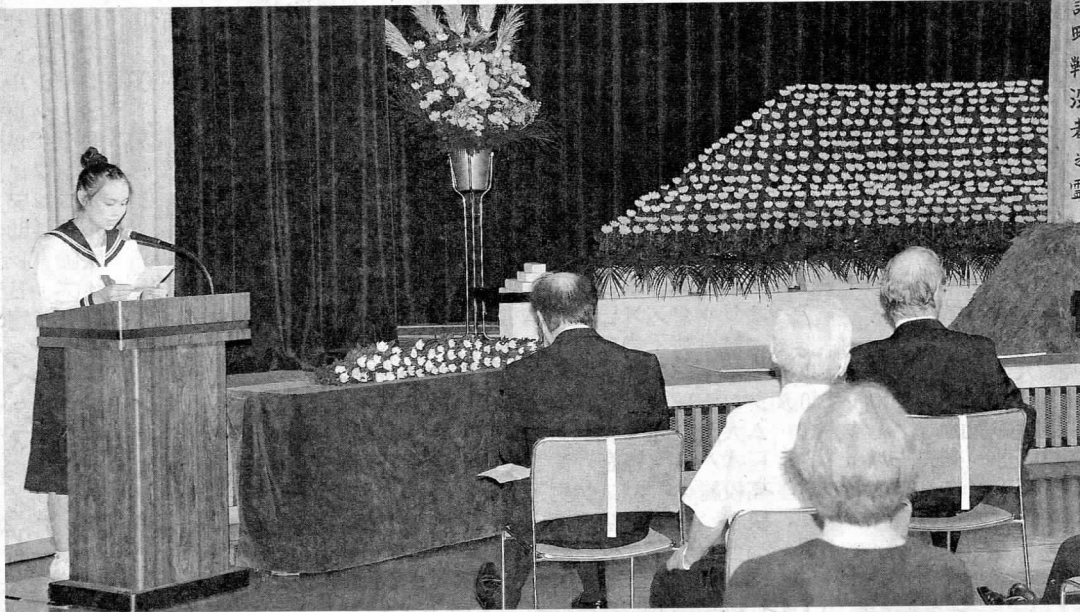


安心して過ごせる世の中に

広島平和教育 戦没者追悼式で中学生報告 体験研修参加



戦没者追悼式で平和教育体験研修での学びを発表する中学生⑤

遺族ら参列者を前に、一人ずつ作文を朗読。「平和は当たり前ではない」「みんなが安心して過ごせる世の中に」など研修で学んだ「平和の尊さ」を自分たちの言葉で伝えた。研修は次世代に戦争の記憶を伝えていくために、1999年度から実施。平和記念公園を見学し、被爆者の講演で「戦争とは」「原爆とは」を学んでいる。研修後は毎年、戦没者追悼式で研修での学びを発表している。

下諏訪中学校の原咲良さんは「今後どうするべきか」というテーマを持って広島を訪問。被爆者から「平和とは命が守られ、家族やみんなが安心して過ごせる世の中」の言葉を聞き、「これまでは平和を深く考えていなかったが、平和は当たり前ではない。平和に感謝して過ごすことが、戦争を忘れないためにも必要だと思った」と発表した。

参列者は中学生の発表に耳を傾け、発表ごとに大きな拍手を送っていた。

下諏訪

3年度「広島平和教育体験研
委員会」の202

修」に参加した下諏訪中学校
と下諏訪社中学校の2年生8
人は15日、下諏訪総合文化セ
ンターで開かれた町主催の戦
没者追悼式に先立ち、広島市
での研修の成果を報告した。

下諏訪中学校